



東北復興日記

まだまだ



株式会社さとゆめ 取締役

嶋田俊平さん

▶▶ 226

た。

紡績機械を入れるほどの資源量
・事業規模ではないため、有志が
手仕事で糸を紡ぐソーシャルム
ーブメントを広げていく戦略が立て
られました。その手紡ぎの糸から
ランプシェードを数百個作って、
太陽光発電の電力で鎮魂の明かり
をともすイベントが、冒頭のライ
トアップになります。

私は戦略策定やイベントの企画
に携わっているのですが、このム
ーブメントを通じて、糸だけでは
なく、人の縁も紡がれていくのを
興味深く見えています。

コットン栽培のボランティアアッ

糸をつむぐ、縁をつむぐ

この背景から説明しましよ
う。在来種の綿花を有機栽培で育
て、福島に新たな産業を生み出そ
うと一二年に始まったふくしまオ
ーガニックコットンプロジェクト
は、着実な広がりを見せていま
す。一六年の栽培面積は約二・六
畝で、コットン収穫量は一トを超
えました。しかし、コットンのワ
タを糸に、糸を製品に加工する態
勢が地域内ないことが課題でし

アーに参加していた長野県の木工
作家、山田義明さんが糸紡ぎの木
製器具の開発に協力してくださっ
たり、古布を使った織物に取り組
んでいた地域女性団体「織姫の
会」が糸紡ぎやランプシェードづ
くりで活躍してくださったり。

紡がれた糸がランプシェードと
なって地域と人の心に明かりをと
もし、さらには、縦糸横糸となっ
て製品を生み出し、地域に雇用と
産業を創出することを目指しま
す。ご関心のある方は、糸紡ぎや
ランプシェードづくりに参加くだ
さい。

問い合わせは、NPO法人ザ・
ピープル 電話0246(52)2
511へ。



織姫の会のメンバーら

※この連載は、東京のNP
O法人JKSKと、被災地の
女性たちが協力して復興に取
り組む「結結プロジェクト」の
協力を得て、掲載しています。